企画振興部広報県民課

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ　　『松くい虫被害への総合的な対策について』

日　時　　平成30年10月20日（土）15:00～17:00

場　所　　上小森林センター　研修室（上田市）

目　次

1　開会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ1
2　知事あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ3
3　県からの説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ4
4　ディスカッション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ5
5　知事総括コメント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ25
6　閉会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ27

【参加者　約70人】

進行役：上原貴夫氏（上田女子短期大学教授）

１　開会

【広報県民課長　加藤　浩】

皆さん、こんにちは。それでは定刻になりましたので、ただいまから「県政タウンミーティング」を開催いたします。私、本日進行を務めます、長野県広報県民課、加藤浩でございます。どうぞよろしくお願いします。

県政タウンミーティングでございますけれども、私どもの知事が県民の皆様と意見交換を行うということで、会を重ねてきております。本日は、県内各地で広まっております松くい虫被害に対しまして、皆様と情報を共有し、皆様と一緒に考える場にしたいと思っております。多くの方にご発言をいただきますよう、意見交換の際は進行役の指示に従っていただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

それから、幾つか注意点を申し上げたいと思います。本日の意見交換の内容でございますけれども、個人情報などを除きまして、後日、本県の公式のホームページで公開をして、多くの県民の皆様と共有をしたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

また、取材などで写真など撮影するような場合があります。お困りの方がいらっしゃれば、大変恐縮でございますけれども、挙手をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

それからもう一つ、本日は手話通訳の方、お二人にお願いをしております。長野県では、平成 28 年 3 月に手話言語条例ということで決まりごとをつくりました。障がいのある方もない方も、互いに支え合いながら共に暮らしていく長野県を目指すということでの取り組みでございます。どうぞよろしくお願いします。

それでは本日の進行役をご紹介いたします。上原貴夫様でございます。

地元、上田女子短期大学の教授でございまして、主に心理学、人間関係論などをご専門にされております。心理学の基礎といたしまして霊長類、特にニホンザルを研究し、本県の全県調査を 30 年近く継続されているということで、県内をくまなく歩いておられるような方でございまして、こうしたご功績から、農林水産省鳥獣被害対策のアドバイザーなどのご要職もお務めでございます。

平成 28 年に本県で開催しました第 67 回の全国植樹祭では基本構想委員長、式典委員長などもお務めいただいたところでございます。

本日、これ以降の進行は上原様にお願いをしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。先生、よろしくお願いします。

【進行役　上原氏】

それでは始めたいと思います。

今日は皆様のお気持ちやお考え、存分に聞かせていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

進め方ですけれども、この後、知事さんからごあいさついただきます。その後で、やっぱり長野県の松くい虫被害というのは今どんな状態なのか。そんなご説明を県からいただこうと思います。それでおよそ全体を見わたせたところで意見交換と、その様に進めていこうと思いますけれども、よろしいでしょうかね。

では、みんながしゃべれるように、その辺のご配慮はよろしくお願いしたいと思います。

それでは早速ですけれども、まず知事さんにごあいさつをいただきます。お願いいたします。

２　知事あいさつ

【長野県知事　阿部守一】

皆さんこんにちは。長野県知事の阿部守一と申します。よろしくお願いします。

今日は県政タウンミーティング、大勢の皆様方にお集まり頂きまして、大変ありがとうございます。

今日のテーマは、「松くい虫被害の総合的な対策について」ということで開催させていただきます。

松くい虫、長野県、今、多くの市町村で松くい虫被害が広がっています。なんとか被害を食い止めていかなければいけないということと同時に、例えば、特に、薬剤の空中散布に対してはいろんな皆さんから反対の声であったり、敬遠の声であったり、そうした声も出ています。

すべての皆さんが、べつに、やたらと薬剤を撒けばいいと思っている人はいないと思います。あるいは、すべての皆さんが、長野県の松林なんか枯れちゃってもいいんじゃないのとは、たぶん思ってはいないと思います。

皆さんの願いは、豊かな自然環境をしっかり守らなければいけないということだと思います。そして、その一方で、健康とか私たちの生活環境が安全安心な環境であり続けるようにあってほしいよねという思いは、今日お集まりいただいている方、皆さん共通しているんじゃないかと思います。ですから、あえて今日は「松くい虫被害の総合的な対策」というテーマを選んでいます。

なんとなく皆さんモヤモヤしているんだと思います。私もなんとなくモヤモヤしているんです。実際に松くい虫対策をやっていただいているのは市町村の皆さんですので、それぞれの地域によって状況とか対応の仕方も違っています。とは言え、県としては県全体でしっかり対応していかなければいけないということで、いろんな方策を考えて市町村の皆さんにも、例えば空中散布するときにはリスクコミュニケーションをしっかりやってくださいねというようなこともお願いをしながらこれまで取り組んできています。

今日は、まず、県の林務部長はじめ林務部の職員が来ていますので、長野県として、今、この問題についてどんな考え方でどんな取組をやっているのかというのを、報道とかでは断片的にしか皆さんに伝わっていないと思いますので、まずちゃんと県の考え方をお伝えしたいと思っています。

その上で、松くい虫対策に対してはいろいろな皆さんの思いがあると思いますので、皆さんのお考えとかご意見を出していただいて、ぜひ共通の目指すべき方向性を見出していく事ができればいいなというふうに思ってこのテーマを設定させていただいています。

ぜひ、意見とか立場が違うと、何言っているんだというふうに思ったり言いたくなってしまうかもしれませんけれども、冒頭申し上げたように、すべての人がやたらと薬漬けにしろとはたぶん思っていないと思います。

すべての人が長野県の豊かな自然を守ってほしいと思っていると思います。

すべての人が健康や安全安心はしっかり守ってほしいと思っていると思います。

ぜひ、そういう皆さんの思いを同じ方向に合せることができれば、この松くい虫対策でいつもなんとなくモヤモヤ感があるなというふうに思っていらっしゃる皆様方の思いも少しはいい方向になるんじゃないかなというふうに思っています。

今日は上原先生に進行役をお願いさせていただいていて、上原先生にはいろいろご負担をかけると思いますけれども、ぜひ、皆さんにも上原先生の進行にはご協力をいただいて、有意義な、松くい虫に対する向き合い方が県民の皆さんと一緒に共有できたよね、あるいはある程度腑に落ちたねっていうふうになるような会になればいいなと私は思っていますので、ぜひ、皆様方のご協力をいただければと思います。よろしくお願いします。

【進行役　上原氏】

ありがとうございました。

それでは県からご説明をお願いしたいと思います。

3　県からの説明

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

みなさんこんにちは。

林務部森林づくり推進課の課長の高橋明彦と申します。

意見交換の前に 20 分ほど時間をいただきまして、松くい虫の被害の状況、あるいはそのメカニズムや今県が進めている対策につきまして、説明させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

まず、松枯れの仕組みについて説明させていただきます。それから全国・長野県の被害の経過、それから、今年度から取り組んでいる「アカマツ林と松枯れ被害の見える化」について説明させていただきます。それと対策の事例をいくつか上げさせていただきながら、最後に枯れた松の利用についても説明させていただき、具体的にイメージを作っていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

（別添資料に基づき、松くい虫被害のメカニズム、被害状況、対応状況の説明）

４　ディスカッション

【進行役　上原氏】

ありがとうございました。

今のお話で、あそこがちょっとわからなかったなとか、もう一度、教えてほしいということがあったらお尋ねしていただきたいと思いますが、その前にちょっとお願いがございます。

最初、お願いしましたように、なるべく多くの方にお話しいただきたいので、どうか要点をまとめていただいて、簡潔にお話しいただきたいと思います。その辺、お互いに協力し合っていただけたらと思います。

それから、差し支えなかったらお住まいの市町村及びご自身のお名前を言っていただけたら大変助かります。

それでは早速入りますけれども、先ほどお話させていただきましたが、ちょっと今の説明で、何かもう一度聞いておきたいとかありましたら簡潔にお願いします。

【参加者】

２点あります。

１点目ですけれども、マツノザイセンチュウと松枯れの関係で、今のご説明では、松が弱っている部分も影響があるということでよろしいでしょうか。

２点目は、薬剤散布のことですけれども、薬剤散布だけでなく、伐倒処理もすると。薬剤散布するだけではだめですよ、伐倒処理もしてくださいよ、という説明があったと思うんですけれども、県としては、薬剤散布をする条件として、伐倒駆除もきちっとしてくださいということを伝えていらっしゃるのかどうか。

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

２つ質問をいただきましたけれども、基本的に、先ほど言いましたように、カミキリが卵を産めるのは枯れた木、ただ、あまり枯れ過ぎてもだめですけれども、弱った木しか生めません。ヤニのせいで産卵をしてもだめになります。ですから、カミキリが産めるのは枯れた木か、枯れかかった木なんですね、そういう意味では、弱った木にしか生めないと。

それともう一つ、伐倒駆除を空中散布と併用しないといけないかと、これも国からも言われて、当然、全国的に一緒です。さっき言いましたように、薬がまんべんなく撒ければいいんですけれども、やっぱりヘリだとか無人ヘリにしても、まんべんなく撒けない。どうしてもムラが出てきてしまいます。そこにカミキリがアタックをかけると感染してしまいます

ので、その感染木を放っておきますと次の年にその周りに被害が広がる、あるいはカミキリが、さっき言いましたように 100 個から 150 個ぐらい卵を産みますので、一気に絶対値が増えます。そういう意味では、被害木をしっかりと駆除してもらう必要があります。

ただ、人が入れないような崖地とか、そういうところもございますので、そういうところまで強制的に駆除するというのは難しいと思っておりますが、何らかの形で対応いただくような形を、今、考えています。ただ、人が入れるところは当然、伐倒駆除を一緒にやってもらわなければいけないと思っています。

【参加者】
ありがとうございました。
空中散布だけじゃなくて、もうひとつ、伐倒して燻蒸してますよね、その時であっても近くで枯れた被害木があればそれも伐倒するというのが基本というふうに考えてよろしいでしょうか。

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】
はい。

【進行役　上原貴夫氏】
では、すみません、お待ちいただいている方。そちらの方。

【参加者】
塩尻は初期の状態でどう抑えられるかっていうことを考えた時に、虫の生態に着目してなんとかできないか考えています。

質問でございますが、木の中にザイセンチュウが入った場合、諸説あるようなんですけれども、どうして枯れるのかというメカニズムについてご説明がなかったので補足願いたいということと、一般的に枝が枯れてしまうと、もう、その木自身を切らなければいけないというような、そういうご指導になっているかと思います。

そういう意味で、一般的に枝の一部が枯れはじめた時に、どれくらいで幹の部分まで到達するのか見解を教えてください。

【進行役　上原貴夫氏】
ありがとうございます。メカニズムですね。

よろしいですか、どなたかお話いただけますか。

【長野県林業総合センター　柳澤研究員】
林業総合センターの柳澤と申します。
ザイセンチュウによって松がなぜ枯れるかというメカニズム的なところなんですけれども、諸説ありまして、センチュウが毒素を出すとか、仮道管といって水を上げる組織にセンチュウが詰まって枯れてしまうとか、いろいろありますが、実はまだ決定的な原因というのが解明されていません。ただ、一番有力な原因としましては、センチュウが入ってきたことに松が抵抗しまして液胞と呼ばれる細胞をふやしていくと、死滅していく細胞なんですけれども、一種のそういったアレルギー反応を起こして、感受性の高いアカマツが特に枯れていくということが言われています。

【参加者】（再度）
薬品メーカーからの情報ですと、最新の知見が出たという話があったものですからその辺捉えていらっしゃるかどうか。

【長野県林業総合センター　柳澤研究員】
最新情報は存じていません。

【進行役　上原貴夫氏】
どのくらいで進んでしまうのかということについては…

【長野県林業総合センター　柳澤研究員】
枝から入りまして、早ければ１か月とか、それくらいで枯れていきます。アカマツの場合ですけれども。

【進行役　上原貴夫氏】
どうぞ。

【参加者】
伐倒駆除と、それから樹種転換についてちょっとお聞きしたいんですが。
伐倒駆除の説明があったんですが、昔はこの地方は大体６月 10 日ころまでに伐倒をしな

いとカミキリが出てしまうと。虫が出てしまってから伐倒駆除をしても価値がないし、無駄なお金を使うわけなんですが、その時期はいつごろなんですか。

昔は大体、平均的に6月10日までということでございましたし、私は青木村の住民ですが、青木は村長さんたちが歴代しっかりやっていただいて、大体、6月10日ごろまでにほとんど全部伐倒しているわけです。ところが他の所は8月になっても9月になっても真っ赤で、伐倒がうんと遅れているんですよ。これでは、一方で一生懸命やっても意味が無い。青木の場合はそういうわけで、歴代の村長さんがしっかり、森林組合さんのご協力を得てかなり進められていたということです。その時期の問題。

それから次は樹種転換をしたら350万円くらいかかるというんですが、コナラの苗木は、30センチや50センチの苗木を植えたってよく育たないんですよ。よく育つには苗畑で3年ぐらい育てなきゃだめなんですよ。

それからレーザーとかマップだとか、こういうのも必要だけれども、私はそれよりも早く伐倒処理をやるべき、10何ページからの後のやつなんかは、私はそんな重要だと思いませんね。

【進行役　上原貴夫氏】

ありがとうございます。

青木近辺では6月10日を目安だったということですね。気候のこともあるから地域で違う部分はあるとは思うけれども、大体、いつぐらいなんでしょう。

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

伐倒駆除は、羽化する前にしないと意味が無い。そういう意味では6月前後あるいは標高の高いところは7月頃です。

昔は当年枯れでなく年越し枯れが多かったので、6月までとかに期限を区切って駆除していただいていたんですが、今はその年に枯れるものも多くなって秋駆除も同時にやっております。卵を産む時期というのは産卵が7月～9月くらいになりますので、そのときに枯れていた松に産んでいる可能性が高いものですから、これはある程度目星をつけて秋駆除してもらうっていうのも多くなっていています。

年を越すものについては、6月とか遅くても中旬くらいまでだと感じています。

【進行役　上原貴夫氏】

タイミングがあるということですね。

【参加者】

ザイセンチュウがというのが大きな焦点になっていますけれども、実際に長野県で枯れたものでザイセンチュウの検出率はどのくらいあるのかという、林業総合センターで調べていると思いますけれど、これきわめて大事な原点だと思うんですね。観念じゃなくて数字で伺いたいなと思うんですけれども、どんなものでしょうか。

【長野県林業総合センター　柳澤研究員】

私どものほうで枯れた松から検体をとりまして、それの中にセンチュウがいるかどうかという鑑定を行っております。

今、おっしゃられるように、全ての枯れた松からセンチュウが出るわけではなくて、全体のおよそ半分、鑑定できたものの中の話になりますけれども、鑑定をした結果では、半分ぐらいはセンチュウが出て来ると、残り半分はその他の原因で枯れているというような結果にはなっています。

ただ、それも地域によってやっぱり違うということが考えられると思いますけれども、地域別には被害率、陽性率というのは出していません。

【参加者】

そのセンチュウの中で、DNA 鑑定で一致しているのはどのくらいですか。

センチュウはいっぱいいますからね。

【長野県林業総合センター　柳澤研究員】

DNA 鑑定もやっているんですけれども、すべての検体で DNA 鑑定している訳ではございません。あきらかにザイセンチュウだというものはその時点で陽性ということでお返ししておりますけれども、不明な場合に DNA 鑑定しておこなっております。ですので全体に対して DNA でザイセンチュウだという数字は申し上げられないところでございます。

【参加者】

わかりました。ザイセンチュウも他のものもありそうだと。そういう見解でよろしいですね。

【長野県林業総合センター　柳澤研究員】

そうですね。すべての松がザイセンチュウで枯れているといことではないということになります。

【参加者】

素朴な質問でございますけれども、私はもう 10 何年も、20 何年前でしたか、以前は 800m以上は大丈夫だよと、こういうような話がまかり通っていたわけでございます。現状、とにかくもう 800mの地点で、どんどんと発生をするような状況にあるということでございます。

私もいろいろあちこち回りながら勉強してまいりましたけれども、そういうことに対する、言葉の真意を最近、私は信じられなくなったわけございますけれども、一体、この 800m以上はということについての根拠ですね。大体、温度はどのくらいで、それから天候状況はこうで、最近の天候状況を見ますと非常に高温化しておりますからね、理解はできるわけでございますけれども。そのしっかりとしたデータはあるのかどうか、お伺いをしたいと思います。よろしくお願いします

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

さっきの柳澤さんの説明で誤解を招いてはいけないと思うんですけれども、センチュウがいるかどうかって最初はドリルで穴を開けて木片を取るんですが、これはベールマン法と言いまして水の中に入れるとセンチュウが落ちる。いま言いました DNA 鑑定はセンチュウがいなくても痕跡だけでわかる方法で林業総合センターで行っています。ただこれ鑑定するのにだいぶお金がかかるものですから被害地の先端地域の松だけを中心にやってもらっています。

だからセンチュウがいたのは半分かもしれませんが、いなくても松くい虫被害以外かは DNA 鑑定しない限りはわかりません。ちょっと誤解のないようにお願いしたいと思います。

それと、800m 以上っていいますのは、だいたいカミキリの活動って 1 日の平均気温が 15 度以上で活性化しまして、この 15 度を超える温度を積算するんですね。それが 200 とか 210 とかになるとそれより低いところが活動しにくいところ、だいたい長野県では 800m、緯度の関係で南と北では違いますが、そういうことで出していると認識しています。そういう意味では、年間の気温ですね、これに相当左右されます。標高が低いところでも谷地形で気温が低いところは被害がなかったり、逆の場合もございます。

標高が 800m 以上でも日当たりがいいところで発生しているところもありますので、気温が相当影響していると思います。

【進行役　上原貴夫氏】

そんな状態のようでございますが、これもしっかり調査しているんだけれども、自然は手

ごわい、本当にいろいろな要素が絡み合っているからね、よくわかります。はい、ありがとうございました。では後ろから。

【参加者】

松くい虫が松枯れに結びつくのは当たり前だと思っています。でも、現実は、もっとほかのものがある。その一つが酸性雨とか排気ガスの問題。もうこれだけ化学的なものが進んでいる中で、そこら辺の対策というのか、そこら辺の対策を置き去りにして単に殺虫剤を撒いて自然界を崩壊させるようなことをいつまでやっているんだと。

上田市がマツクイムシの防除、空中散布をやめたときに、10 年前にＮＨＫがゴールデンタイムで 30 分放送したんですよ。それ今年は、それを引き継いで土屋市長が地上散布をやめたんですよ、だからここら辺を、どうしてそうなったのかというところを追及なされていない。国の方程式で決まっているからするだけ。マツクイムシはこの薬を使えと、そういうことだったから皆しているだけですよ。そこら辺の図式を変えてほしい。長野県からやってほしいです。

【参加者】

空中散布についてずっとなんとかできないかということで知事さんにも何度も申し入れ書を提出させていただいたりしておりました。

平成 26 年から平成 27 年に千曲市の国道沿いの松が一斉に枯れたんですね。その松を 1 年以上放置して、その後伐倒して、その後の状況がどうなっているかというと、緑になっているんですね。冬に緑があるということは、小さな松が育っているんですよ。それとか、下にはそれ以外の広葉樹なんかもあると思いますけれども、本当に自然に山って再生してくれるんだなというのがよくわかりました。

松枯れの状況はどうなのかというと、それ以後、進んでいないんですよ。ほとんど。もしそれが松くい虫で枯れたとすれば、その周りの松もどんどん進んでいくはずですよね、でもそうじゃないんです。

県が枯損木調査やるようにという指示を出していただいて、千曲市は平成 26、27 年に枯損木調査をやりました。その結果、空中散布をやったところとやらないところの差が僅か 2 年間で 2 %でした。やったところは枯れない。やっていないところの 100 本のうち 2 本だけ枯れたという状況で、2 年間でわずか 2 本、この差は差じゃないでしょう。やっているところでも、枯れているのもあった。ということはほとんど変わりはないということ。

その 12 月に翌年平成 28 年の空中散布をやっていいのかというのを市議会で取り上げて

いただいて、結果、28 年度はやらないということになり、そのあとやっておりません。

松枯れの原因は松くい虫だけに限定してますけれども、松が枯れる原因は松くい虫以外のもので枯れて、弱ってきたところにカミキリムシが卵を産む。その原因をなおざりにして、全部松くい虫のせいにしているところが大問題で、そこのところをもっとはっきりとしていただきたいなと思います。

【進行役　上原貴夫氏】

もっと自然を広く大きく見て、それから自然の再生の力とか生態系とかそういう言い方になるんだろうけれども、そういうこともしっかり見つめて対応したらどうなんだと、そういうことでよろしいですかね。

【参加者】

先ほどいろいろなことを発言したのは上田とか、空中散布をやめているところの方々の発言が多かったと。

私はまさに松本の中心部の頭の上に去年も今年も空中散布を行われようとしているわけ。それを死に物狂いでやめてくれと叫び続けている人間なんです。それから、松本市で 6 年間にわたって空中散布した四賀地区、それがどんな状態か、まったく効いていません。全滅です。

写真も撮ってきましたから意見の時にお見せします。今日は黙って聞いていようと思ったが課長が空中散布は効果がありますと言った。そんなこと軽々しく言ってもらっちゃ困る。

それから相変わらずリスクコミュニケーションなんて松本市の行われているのは一種の暴力的なことです。

それからリスクコミュニケーションっていうのは危険性の共有なんです。散布しようとするネオニコチノイド系殺虫剤というのはアセタミプリドですね、これマツグリーン液剤２ってやつでしょ。リスクコミュニケーションというのは、実施しようとする、松本で言えば松本市、市町村長と散布する地域の人との間のリスクの共有なんです。この薬剤はどういう危険性があるかということ。それでも散布するかどうかという問題なんです。私の市町村では一切行われていない。松本では野菜にも使われているんだから大丈夫だ、これしかないんです。散布したその日は山に入らないでください。翌日なら入ってもいいですって言っているんです。これは公文書にあります。広報にも出ています。これはとてつもなく恐ろしいことなんですね。これを作っているメーカーはそんなこと言っていません。8 か月も 1 年も

効果が持続するって言っているんですよ。しかも今年は市は見合わせましたけれどね、あそこは史跡なんです城址なんですね。そこに観光客も行けば松本市民も行けば保育園児も毎日のように行っているところで、その日入らなければいいって。今、大変な問題になっているわけですよ、これ。世界から、ヨーロッパは禁止、全面的な禁止に向かっている、空中散布だけじゃなくて。それから日本だけじゃなくて、海外を含めた幾多の専門家がこのアセタミプリドの危険性というものが徹底的に指摘されているわけですよ。それを、効果が仮にあったとしても、人間がどうなのかという問題が一つ抜けていた。課長の説明は。人間と松のことで、そしてもう一つは効くか効かないかっていうことなんです、効かない。仮に効くという見解があったとしても、人間の方が大事だっていうことの話なんですね。

松本市は全部で 3600 万円かけて散布した。四賀地区に 1 年に 2 回。どうなったか、あとで写真をお見せします。全滅です。

それで質問します。課長は、マツグリーン液剤 2 の成分知っていますか。これはアセタミプリドが 2%あるということは明らかになっています。残りの 98%は何ですか。私は 3 日前に農水省に文書開示請求して回答が取れたんです。全部真っ黒です。メーカーも含めて。そこには補助剤って書いてあります。一説にはベトナム戦争で使われた枯葉剤も入っていると言う人もいます。ただ証拠のないことは言えませんよ。そこでお聞きするが、マツグリーン 2 の液剤の内容が何か知っていますか。

【進行役　上原貴夫氏】

よろしいですかね。別の方どうぞ。

【参加者】

私は長く松本に住んでいます。今のお話しで気になるのは、松枯れ＝松くい虫というイメージでお話をされています。実際には松は 50 年くらいで衰退して広葉樹林に変わっていきます。松は大地に転んで樹木を肥やして、成長して実際には自然遷移で広葉樹林に変わっていきます。シラカバは最初に入ってきますけれどコナラとかブナ科のものが栗もそうですけれども次の森の準備をして入ってきます。そういうことから見ますと、戦後エネルギー革命で松の林に入って木を切らなくなりましたし、富栄養化して松も弱っています。私が長野県に引っ越してきたころはまだ松枯れは見えませんでした。で道路が開通して高速道路やバイパスができましたら次第に赤くなりました。

マイクロスコープという、野外で植物の葉っぱを見る道具なんですが、松枯れの葉を見ますと、裏側にディーゼルのすすがいっぱい付いております。それが松枯れの最初の衰弱の原

因です。これは岐阜県でも 60 年間薬剤をまいていろいろなことをやってきたんですけれども、先日、林政部の部長や局長をやった男に尋ねましたら、まだそんなことやっているのかと、長野県で空中散布やっているんだったらスミチオンとかどんな強い薬を撒いても一向に止まらないんだと。それが現実であってどんな農薬をまいてもだめなんだということを言っておりました。

今のお話を伺っていますとちょっとこれは対症療法のみで、実際に原因は何なんだと、松の衰弱の原因を突き止めないうちに薬剤だの伐倒だのそんな話になってしまいまして、木の研究をしておりまして、非常に気になりました。せひ、松の枯れた状態の葉の裏をちゃんと検証してください。いろんな文献にも出ています。そういうものも県の職員の方はきちっと精査されて対応してもらいたいと思います。

林野庁の行政を見ておりますと、最初は岐阜県あたりで効果が出てくると霞ヶ関で振り分けて、それを順次各県が実施します。長野県は最後の方で、高知県の後ぐらいで政策をやっています。言い換えれば非常に恵まれた森林の県ですので、数十年遅れた政策をやっている感じがします。ですから、他県の失敗例を見て同じことをおっしゃらないできちんと対応していただきたいと思います。

【進行役　上原貴夫氏】

ありがとうございました。ちょっと、大事なことが二つあったと思うんです。これ行政もしっかりしろと、これはもちろんありますね。それから、山を、要するに自然をどうするかという、もう 1 個大きな話があったと思います。

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

いま、アセタミプリドを無人ヘリで使っていますけれども、基本的に農薬は当然科学的な実験に基づいて国の登録制度の中で登録されています。もちろん、効くか効かないかも含め試験をやって国で許可して販売されていますので、私共は直接その成分のことについてまでは関与できませんけれども、そういった制度の中で認められたものと認識しております。

アセタミプリドについては、前は有機リン系の殺虫剤を使っておりましたが、なるべくネオニコチノイド系とか毒性の比較的弱いものに変えてきております。

それと大切なことはリスクコミュニケーションいろいろ言われましたけれど、これは当然法律に基づきまして国の基準、県の基準、さらに長野県の場合は平成 23 年にいろいろなかたちで、化学物質の医師の意見も聞きながら丁寧に対応を考えて方針を作成して、市町村のほうに説明して実施していただいております。

松本市の里山辺の取り扱いについては、十分であったかどうかと聞かれれば、確かに疑問は残りますのが、いずれにしても空中散布する市町村へは、県としてリスクコミュニケーションの徹底を指導していきたいと思っています。

【参加者】

坂城町から来ました。坂城町は千曲市と上田市の間にあります。

毎年、撒いております。どういう薬かというと、ネオニコチノイド系で 7.5 倍をヘリコプターで撒いております。それで、一向におさまっておりません。なお、私の見る範囲ではふえております。

それと、その国の許可を信じていいのか、一例を申し上げます。ＤＤＴはノーベル賞をもらいましたが、今は全て使用・販売禁止です。国の許しとか許可があるからいいという、それを信じてそれで取り返しのつかないことがありました。だから国が許可したからとか、大丈夫だからというのを信じていいものかどうか、これを皆さんに問います。

それと、そのマツノマダラカミキリの生態がまだはっきりわかっていない、私も見たことはありません、生きているのを。県の塩尻林業総合センターで標本を見せてもらいました。

非常に小さな虫で、山を登るたびに松枯れのとこへ行って、虫がいるかどうか見ても１匹もおりません。薬を撒く説明会のときに見たことがあります。生きたマツノマダラカミキリを見たことがありますかと聞いたら誰も手を上げません。

一向におさまっていないというのはどういうことか、それを教えてもらいたい。

【進行役　上原貴夫氏】

何か見解はありますか。

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

先ほどの残り 98%の成分というのは私は存じておりません。

先ほど申しましたように、ちょっと誤解がないように私どもで説明させていただきますけれども、センチュウが出ないからと言って松くい虫でないとは言えません。それと要因として、確かにいろいろと学説がございまして酸性雨説とか土壌の関係とかありますが、これだけ短期間に松が枯れる主原因は圧倒的にマツノザイセンチュウです。これは明らかだと思っています。

ただ要因としまして松の衰弱、特に大変暑い日が続くときに水ストレスによりまして、次の年に一気に、あるいは秋から一気に枯れる現象もあります。

主因はマツノザイセンチュウ病ですけれども、その要因としては、今、先ほど言いましたように排気ガスの関係だとか、酸性雨の関係もあるかと思います。

ただ、そこをはき違えてしまうと対策が難しくなります。もう少しそれは科学的なデータに基づいて対応しないといけないと考えておりますので、単純にマツノザイセンチュウ以外のものが立証されれば、当然、県としては新たな対策を取ります。

もう一つ言えることは、松も間伐しながらしっかり育てる方が確かに耐性が強くなるのはこれは明らかですので、さきほど、ちょっと私が申し上げましたように、800mから 900mのところにつきましては、防衛ラインもそうですけれども、間伐等の手入れをしながら松をある程度育てていく、特に松は菌根菌と共生しておりますので、広葉樹が入ってくると耐性が弱くなるんですね。そういう意味では松林を守るといった意味で広葉樹をある程度は整理して健全な松を守るというのも一つの手段だと考えています。以上でございます。

【参加者】

私現場に入りますので、現場的な観点から、現状として上田地域はアカマツ林が 22%、県内では 15%だと思いますけれども、それぐらいアカマツ林が多いと。いま、健全に山を育てていくにどうしたらいいかと、枯れてしまうのは相当なマイナスであって、障がいになっているのが現状です。現場に入っていきますと、枯れ始めの茶色いうちは山に入れるんですが、枯れて木が白くなってしまうと、折れやすくて危険で山に入れないという状況になってきます。枯れた木が集団になってきますと、今度は二次災害、今、豪雨とかありまして、土砂崩れとか起きる可能性があります。

市町村とか県も含めて予算をつけていただいて伐倒燻蒸とか樹種転換の対策を行っていますけれども、ちょっと目に見えてまだどんどん進んでいっちゃっているんじゃないかなというのが率直な感想です。この地域はマツタケも特産であるということで、松林をどうしても守りたいっていうところだと思っておりますので、今後もっと一層の対策というか、山で働いている私たちが山に入れないという不安がありますので、一層の対策を行政と一緒になって私達も検討させていただきたいと思います。

【参加者】

関連はしていますが、その前に、先ほどのこのアセタミプリド、マツグリーン液剤 2 の成分について、98%は何という話の中で、課長さんは知らないと今おっしゃっていましたけれども、平成 23 年の県の指針に基づきまして平成 24 年から四賀地区で説明会がありました。この中でメーカーがこのマツグリーンの内容についてこういう資料が配布されました。

その中に構造式があるんですね。私、素人なりに、インターネットで調べてみたんですけれども、この構造式の中にＣＮ（シアン）というのがあるんです。要は先ほど説明された先生に質問をしましたらシアンと言いました。シアンって何ですかといったら、シアンというのは青酸カリの主成分だと、そうですね、先生、そうですね。

それで、シアンって気化するんですって、ガスを出すんですよ。四賀地区はご存知の方がいらっしゃると思いますけれども、すり鉢型になっていて、そのガスが渦巻いちゃっているんですね。ほかに高速道路も走っていまして、そこもガスが渦巻いている。そういうことでもって、松枯れの被害がまとまったのではないかと。

それから、今年、マツタケが大豊作、伊那にマツタケ博士がいます。実態を見てもらわなければいけないということで、私の山を見てもらいまして、この四賀全体を見てもらいました。来たときに何を言ったかというと、開口一番にちょっと、これじゃだめだなと言いました。これじゃ、松が枯れるだけだと。まず、さっきおっしゃっていたように、元気がなくなって、カミキリムシが入ってセンチュウが入るわけですが、柴をしっかり取って風通しをよくして、早くいえば、環境を変えてあげないといけないと。我々にできることは山に入って柴掻きをやりなさいと。ということで柴掻きを一生懸命やっています。結果は６年後になると思いますけれども、マツタケが出たあかつきには、皆さんの中で関心のある方は見に来ていただきたいというふうに思います。

【進行役　上原貴夫氏】

いろいろな対策を応援してほしいということですよね。

では県から。

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

松くい事業の抜本対策もそうですし、造林事業とかいろいろ対策支援は県として用意してございます。特に樹種転換は大変お金がかかるものですから、これにつきましても 10 分の７の補助をご用意しております。ただ、松林の対策って基本的に行政が中心にやっているんですね、県とか市町村が中心です。森林所有者があまり参画しないのが農家と違うところでありますので、できれば今、お話のあったような松の手入れとかそういったものは住民の方々が何らかのかたちで参画していただきたいと思っております。さっきの税事業、皆さんにお認めいただきまして今年スタートしましたが、その中でも住民協働の制度も用意しておりますので、また、パンフレットを見ていただきたいと思います。松くい被害対策などについていろんなことができますので、ぜひ取り組んでいただいたいと思います。そこから、

松を元気にさせることも一つの対策だと思っております。主要因はザイセンチュウですが、要因としては衰弱、特に菌根菌との共生が難しくなったっていうことが大きな要因だと思っていますので、そういう意味では何らかのかたちで人が手入れに入っていただきたいと思います。ぜひ森林税を活用していただきたいと思います。それ以外の造林補助金につきましては、それぞれの地域振興局にご相談いただければ何らかのかたちで対応させていただきたいと思います。それと保安林につきましては県で松くい虫対策を行っておりますので、この会場近くの東山地域においては、治山事業で保安林の機能回復を図っております。そういった制度も PR したいと思いますので、よろしくお願いします。

【参加者】

その件とプラスしまして活用の方なんですが、どうしても枯れた松を伐って山に燻蒸してもそのままという状態になっていまして、何かほかに活用する手段をいろいろ考えてもらいたいし、自分たちでも考えていかなければいけないと思っているんですが、今は燃料としてとか、ひとつの方法しかないのかなという状況の中で、活用方法で新たなものがあれば教えていただきたいと思います。

【進行役　上原貴夫氏】

私も山の木をいろいろと使えないかなと実は思っているんです。どうぞ。

【参加者】

今回、長野県さんが事実に基づいた科学的なデータで松くい虫対策の「見える化」をしていただきましたことは心から感謝申し上げます。知事も本当にありがとうございました。これによって、松くい虫被害がどういった状況かということを県民が理解を深めるきっかけになると思います。本当にありがとうございます。しかしながらですね、現在松枯れのために使われている神経毒のネオニコチノイドというのはですね、このまま永久に撒き続けたらどういうことになるのでしょうか。私はとても心配しております。なぜならこのネオニコチノイドは神経毒です。私達動物やすべて神経の伝達で動いています。その神経の伝達物質であるアセチルコリンという重要な神経の伝達物質の受容体に結合するという神経毒で、神経の伝達を切って虫を殺すという薬剤なんですね。

人間の脳にも、もちろんそのアセチルコリンはたくさん存在します。それで近ごろわかってきたことには、その土壌菌であるとか、ミミズであるとか、そういった小さな生物にもこの重要なアセチルコリンが発見されております。つまりネオニコチノイドを撒けば撒くほ

ど、その菌が死滅していき、結局、農産物の収穫が下がるということが世界的に実証されたので、世界中でこのネオニコチノイドの規制に至っているわけです。また日本の国立環境研究所でも、このネオニコチノイドが発達障がいを起こすことを証明しました。

（国立研究開発法人　国立環境研究所では、ネオニコチノイド系農薬の発達期曝露が成長後の行動に影響を与える可能性を動物モデルで示唆）

ぜひこういった世界的見地、または科学的なデータを踏まえた上で、県民の意見に耳を傾けていただいて、これからどういうようにやっていけばいいのか、今日も貴重な意見がたくさん出されたと思いますけれども、ぜひ継続してこのような話し合いの場を持っていただきすように、知事に要望したいと思います。よろしくお願いいたします。

【参加者】

私の生家は聖高原に数十ヘクタールの山林を整備しています。今は企業をリタイヤして、限界集落を桃源郷にどう変えていくかという中での農業と林業の共存のことを、ハード、ソフトや、ささやかですが研究所で実験のデータを出しながらいろいろやっている一人でございます。

私は以前は外資系の企業で世界中に行かせていただいて、いろいろな国のいろいろな森林、農業を見ながら本業のエンジニアをやってまいりました。今日、皆さんのお話をいろいろ聞いていますと本当にごもっともだなという話で、一言で言えば、私が３年前に林務部長に、僕は一番大変な聖高原の下で、高速の一本松トンネルの手前の一番最前線のグリーンを守っていただきたい。そのときに部長さんは松本合同庁舎と相談すると、何度も何度も相談しながら３年が経過し、ようやく、「見える化」が、衛星写真を撮りながら分析、リサーチが始まったということについては非常に感謝しております。

ただ、今、皆さんのお話を総括的に聞いていると、どうしても行政さんのほうは 800mとか、固定概念があり過ぎます。ですから、ぜひそれは取っていただいて、先ほど北海道では松は枯れていないという課長のお話がありました。私、７月に足寄町というところで、阿寒湖まで国道を調査いたしました。全部ではないですが、ところどころみんな茶色が始まりました。茶色はもう、がんで言ったらステージ、もう４ぐらいになっているわけです。

（後日、北海道庁に確認したところ、当該地域はカラマツアカハラハバチの食害でカラマツが枯れたように見えるとのことで、松くい虫被害ではない。）

ですから、もっともっと予知発見をしながら予知保全をしていかなければいけないわけです。ですから、今、農薬のこともいろいろ取り沙汰されていますが、今、そのことについての議論よりも、むしろ現状のリサーチをもっとスピードを上げて県がやらなければいけ

ない。それから、先ほど林業系の行政にいらっしゃった方、僕も同じ意見を持っています。県の担当者に、僕は仕事上、日本中の高速道路を移動しました。高速道路沿いがほとんどやられるわけです。ですから、先ほどのマツの裏のすす、ＬＥＤ、ありとあらゆることが、センチュウ以外にも相乗効果があるかと思います。高速道路沿いじゃない私が所有する山も、今年の春、伐倒駆除していただきました。でも、もう既に隣の松の枝が黄色くなり始めています。つい数カ月前には伐倒駆除した隣、そのときはグリーンでした。黄色の枝がちょっとでもあったら、それは茶色になります。もう黒色になったら、もう３年目ぐらいです。

ですから放置している問題、それから行政の首長あたりは、これは自己負担でやればいいと住民説明会で言った、とんでもない首長もいます。でも、我々山林を持っている人は被害者なんです。もとをただせば輸入商社、それから国がこういったことの原因なんです。ですから、今日いらっしゃる皆さんはみんな関心を持って対策を講じようとしています。ですから、ここは全員で本当に執着心を持って諦めないで、原因を確かめながら、何をどういうふうにもっていったらいいか、そのほうに時間をとらないと、ある１点ばかりに集中していますと大事なスタートが切れないと思います。ですから現地調査を徹底的に極めていただきたい。それで県のＲＲＴ（急変に対する初動）はまだまだ勉強不足です。もっと現地を見ながら学術的に極めていっていただきたいと思います。

【進行役　上原貴夫氏】

時間も迫ってきていますので、初めての方を優先して、順次まいります。では。

【参加者】

私は基本的に推進派でも反対派でもありません。薬剤に関してどうこういうつもりはありませんので、意見ということで。

今、伐倒して、それを炭化して山に戻そうということで、これから実験をしたいということで、各関係のところにお願いしております。木を炭にしたり木酢液もすべて戻そうということでそれによって森林を強くしようということで来年やってきこうと思っているので県に協力もお願いしたいと思います。

【参加者】

松本市から来ました。隣は６年散布されている四賀地区があります。そこはマツタケの産地なんですけれども、マツの所有者が撒け撒けっていうんです。

農産物に撒くものは 4,000 倍っていいますね。でも空中散布するものは７倍から 10 倍

の希釈度でとても濃いものです。それをやっぱり口には入れられません。でも、マツタケ山の所有者は撒け撒けと言うんですね。

これ、大丈夫なのかなって、今、松本市ではこういう状態ですよ。それは風評被害ということで問題になっているということが世界でも知られている。フランスではもう中止です。それをまだ空中散布するという、人の命よりもマツを大事にするという、それをもっと知事、考えていただきたいと思います。お願いします。

【進行役　上原貴夫氏】

ありがとうございました。では順番でまいります。

【参加者】

対策を考えると、もう空中散布から脱却しなければだめだと言っているんです。それで、これ見てください。これは私が撮った写真です。これは四賀地区の空中散布の状態なんです。これは拡散していくんです。そして６年撒いたんです、四賀地区は。年に２回同じ場所に。６月、７月、だから 12 回です。それがどうなったか、これも怖かったけれども写真を撮ってきました。全滅です。２、３本、生えているところがあるんです。これ６年撒いた場所なんですよ。この場所へ撒いたんですよ。合計、３回、600 万円かけて撒いたんです。課長、一緒に見に行こう。先ほど言った空中散布の効果があったということを軽々しく言っちゃいけない、一緒に見に言ってくれ。松本の人は菅谷市長がやっていることに対して夜も寝られないんです。伐倒駆除とかいろいろあります。だから転換するためには、空中散布から切りかえようと言っているんです。

【参加者】

さきほど、100 本に 1～2 本枯れた程度であれば農薬を撒けば効くと言うふうにお話しされましたよね。これは甘すぎると思います。だいたい 500 本から 1000 本に１本枯れた状態で撒くならいいです。そういう状態でやってるからどんどんみんな撒いてしまうんですよ。でも実際に効果がない。なので、ぜひ撒く基準をもっとずっと厳しくしてください。

【参加者】

最終報告書が今のすべての市町村を規制しているんですよ。これが長野県の原点なんですよね。

さきほどの新しいやり方自体はものすごく私は共感を覚えます。それを阻害する要因があるんですよ。ここにはこう書いてあります。空中散布万能論で主張されているんですよ。ですから松くいになったら空散をやれよっていうふうに書いてあります。書いてあっただけでなくていかに効いたかということがここに写真があります。データもあります。しかしそのデータと写真は実は違ったんですよ。

松本も坂城も再開したのはこの写真を目の前に説明されてこんなに効いているんだからやってくれって坂城さんは地元で要望しているんですね。この問題をきちっと点検してほしいと。

上田市は母袋市長の下で９年前に空散を中止しました。今年は土屋市政の下で地上散布もやめました。ぜひ、知事さんの権限がありますからぜひご英断でこの効果の指針を廃棄してほしいと。もしだめでしたら、最後にいいこと書いてあるんですよ。今こうだけど新しい知見に基づいてこれから空散のあり方を精査検討していきますと書いてあるんですね。あれから 7 年経ってますよ。知事ぜひ、精査検討することを知事のご英断でお願いしたいというのが私の考えでございます。

【参加者】

５歳の息子保育園に通わせています。小さい子どもは常に土だったり草だったりそこらへんにある自然のものに必然的に触れるんですけれども、例えば除草剤であったりとか、普通に使われているものに対しても目に見えてそれが撒かれていることがわからなくて、子どもが触れる場合もあります。親である私でさえもそれが確認できずに触れてしまう場合があったりしまして。

小さい体を持つ子どもたちにとっては、大人にとってはそれほど害にならないものだとしても、ダメージがかなり大きくなる場合もあると思うんですね。

何がいいとか何が悪いとかということではなくて、これから成長していく子どもたちにも皆さんの思いを重ねていただけたらと思いまして、しゃべらせていただきました。ありがとうございます。

【参加者】

数字の報告をさせていただきます。今年も散布している四賀の反町地区の現状です。

散布効果があるということを課長さんもおっしゃられていましたけれども、現実的なことでいいますと、2016 年の秋 19 本が枯れていました。2017 年の春 42 本が枯れていました。全部が 120 本の調査時です。それは松本市も調査していて、次に 2017 年の秋には 49

本が枯れました。その半年後には 54 本が枯れています、6 本ずつです。それで今年の秋は 60 本が枯れました。ということは、120 のうちの 60 本が枯れている。空中散布をしても枯れは止まっていないということだけ、現実の報告としてお話させていただきました。

【参加者】

子どもの通っている小学校のすぐ近くの山が散布の予定地になっているんですね、中止になりましたけど。

感じるのはリスクコミュニケーションというか合意形成の過程に問題があるっていうことで、地域のいろんな年代、いろんな立場の人が意見をちゃんと出し合って自分たちの地域の山、松枯れの問題をどうしていくかっていうのをちゃんといろんな情報を得た上で議論するっていうのがあるといいなと思うんですけれども、なかなか現状そうならないんですね。

私たち住民が参加して何かできないかというふうにすごく感じていて、そのために、やっぱり山にもっと子どもたちを連れて行ったりですとか、住民ができる山の手入れの方法とか、そういうのがもっと広く浸透するといいなと思うんです。やっぱり、散布しているような山に子どもを連れて入りたいかというとちょっと嫌だなと思うし、県政というところでやっぱりお願いしたいなというのは、人材とか子どもの教育をもっと力を入れてほしいなと思うんですよ。子どもとか若い世代が山と関わっていくのに、結局、山とか、そういう森林が遠い存在のままだと、その場しのぎで長期的な持続性のある問題解決にならないと思うので、ぜひ、長野県全体でその森林とどういうふうに県民が向き合っていくかというところまで、小さいうちからの教育とか人材育成に力を入れて、そういうので補えない部分は、森林税とか森林環境税をちゃんとそこに充てるということを希望したいなと思います。

【進行役　上原貴夫氏】

ありがとうございました。

あと手を上げていただいている方にお話しいただいて、県からお話していていただいて、その後に知事さんのほうでお話いただくという、そういう流れでまいろうと思いますのでご協力をお願いいたします。

【参加者】

私が最初の説明の中で新しいと思ったのは、800m から 900m の間の防除ラインの設定だと思います。これは被害拡大防止の要だと資料に書いてありますけれども、その中に間伐

等による松林の健全化、薬剤に頼らない方法ですよね、この内容を本当は聞きたかったんですけれども、実験的にもこれはぜひやってほしいと思います。いままで空散一本やりできたと思うんです。空散と更新伐ですけれども、更新伐は有効な地域に行われなかった。やはり被害の要所にどういうことを行うかが非常に大事だと思います。

【参加者】

この「松くい虫防除のための農薬の空中散布の今後のあり方」これ自体が大問題なんです。

これは平成 23 年に出されたもので時代遅れです。千曲市ではもうやっていないのにまだやっているようなふうに勘違いされます。一番大事な問題点は、「空中散布は極めて効果が高く効率的な方法のひとつと言える」、この文句が県民を惑わせています。ぜひ、これは排除していただきたい。

それともう一つ、ぜひ知事さんにお願いしたいこと、松も大事なんですが、人間の子どものほうが何より大事です。ぜひ、県の最重要課題としてこのことを、子どもを守ることを一番に取り組んでいただきたい。ぜひそれをお願いいたしたいと思います。よろしくお願いします。

【進行役　上原貴夫氏】

では最後に。

【参加者】

松林の衰弱は国土緑化全国一斉造林のときに長野県でも民有林を自然更新じゃなくてアカマツとスギとカラマツを植えました。針葉樹は広葉樹より弱いんですよね。結果的に山は脆弱化してきています。針葉樹を植えすぎたと思います。

【進行役　上原貴夫氏】

ありがとうございました。それでは県の方から。

【長野県林務部森林づくり推進課長　高橋明彦】

先ほどご質問がありました平成 23 年の時に策定したあり方検討会の写真でございますけれども、報告書そのものは事務局は修正できないものですから、平成 27 年に市町村に当該写真について、散布している区域を図示した説明資料を通知してございます。

当時の委員の方にも文書を出しております。県のホームページにも当時の説明文を加え

て掲示しておりますので、何も対応していない訳ではございません。

【進行役　上原貴夫氏】
　ありがとうございました。それでは知事さん、お願いいたします。

５　知事総括コメント
【長野県知事　阿部守一】
　いろいろなご質問やご意見たくさんいただきましてありがとうございました。
　この松くい虫の問題は、反対の人も賛成の人も、激論になるだろうなっていうことはある程度予測されましたし、県の対応がおかしいじゃないかと、もっとしっかりやれっていうご意見も一定、出るだろうなというふうに思っていました。予想どおりいろいろご意見をいただいて、私はよかったと思っています。ぜひ皆さんご理解いただきたいのは、林務部長とか課長とか林務部の職員が来ていますけれども、冒頭申し上げたように、健康被害をどんどん増やしたいとか、長野県の自然環境を破壊したいだとか誰も思っていないです。ですから、まず、一緒に考えたいと私は思っています。ひとつ今日の話を聞いていて感じるのは、皆さんの地元ではこういうことをやらないんですか、リスクコミュニケーションをまずちゃんとやってもらえているって私達は聞いているんです。今日はいろんな市町村からも来られていますけれども、やっぱり、この問題は、さきほどちょっとおっしゃっていただいたように、民主度が問われているんじゃないかと思っています。まず、先ほど来、出ている県の情報の出し方や、若干バイアスがかかってね、空中散布が唯一有効な方法だとかね、非常にこれがいいっていう感じの誤解を与えているとすれば、ただ、さっきの説明は必ずしも齟齬はしていないと思うんですけれども、状況だとか、空中散布だけじゃなくて、他の手法もセットでやらなければいけないとかってちゃんと課長も説明してくれたと思いますけれども、まず、基本的な考え方を行政がちゃんと説明して、それに対しても今日いろいろ出たみたいに、例えば使用している薬剤って知っているのかというお話しもありました。また、国が認めているけれども信用できないよねっていうものもあるかもしれません。あるいはちゃんと国が使用を認めているけれども、さきほど、マツタケ、散布しているところのはいやだねという意見もありましたけれども、使用の仕方としていいのかどうかという話もあるかと思いますけれども、そういうことってやっぱりもっとお互いに腹を割って話し合わないといけないんじゃないかと思っています。森をお持ちで、そうは言ったってできるだけ守りたいという方もいらっしゃいますし、さきほど林業の方もいらっしゃいましたけれども、山に入るのも松くい虫にどんどんやられちゃったら危ないという話もありましたし、それは災

害にとって脆弱になるという話もあります。ただ、逆に、そういう意見とは別に、そもそも松くい虫だけが原因なのかよと、さっき課長も必ずしもそれだけではないと、複合的な要因も有り得るんじゃないかって話もしていましたけれども、たぶん、今日はこういう話をしていますけれども、一般の県民の人たちはもうちょっとマルかバツか、ゼロかイチかみたいな発想でたぶん理解している気がするんですよね。やはり、そういう意味で、我々もできるだけ丁寧に説明しているつもりですけれども、どうも今日の話を聞いていると、まだまだ我々の説明の仕方だったり、出す情報の内容のあり方だったり、やっぱり工夫する余地や改善する余地があり得るのかなっているのは私は感じました。

ちょっとそこは、私は専門家じゃないので、他のことは私が直せって言えますけど、私の独断ではなかなか変えづらいところがありますけれども、少しちょっと林務部とか関係の人たちの意見を聞いて、平成 23 年に出したあと、いろんなデータもありますし、あるいは、さきほど申し上げたように、もう少し我々としても現場の実態を県民の皆様方にわかりやすく「見える化」して、そしてパッケージで対策をとっていきましょうという方向でやっていこうと思っていますので、そういう意味で我々が市町村なり県民の皆さんにお示ししているものについては、見直すべき点は見直していきたいというふうに思います。

それから、私逃げるつもりはないんですけれども、やっぱり地元で、さきほどいろんな事例がありました。さきほど、うちの村長ががんばってくれているみたいな話もありました。これ、市町村が実施主体だから、県が実施主体になっている場合もありますけれども、市町村が実施主体になっているんで、うちの地域はこういう状況だから、そして、例えば、松林を持っている所有者の人たちはこんな思いですと、でも逆にお子さんがいらっしゃる方はこんな心配を持っていますよっていうのを、地域でもっと話し合いをしていかないといけないんじゃないかというふうに思いますので、そこは、私から、今度市町村長が集まる機会に、しっかり丁寧にやってくれという話をしたいと思います。

それから、皆さんからいただいている森林づくり県民税は、今度、皆さんの身近な里山を、地域の皆さんに一緒に整備に加わってもらいたいということで、里山整備利用地域っていうのを県が指定して、そこの整備には森林づくり県民税のお金を入れられるようにしています。私が森林づくり県民税の延長を議論しているときにお母さんたちから言われたのは、長野県は山とか森がいっぱいあるけれども、子どもが入れる森は少ないじゃないかと。地域の皆さんは身近にあるけれども子どもを連れて行けない、遊ばせるような場所になっていないというような話もありましたし、さきほど、農薬散布しているようなところは子どもを連れて行きたくないというような話もありました。やはり、自分たちが身近で使っていただく地域は、自分たちである程度手入れしていただくということが必要だと思っているんで、

ぜひ、ちょっと今日集まっていただいている皆さんは非常に森の問題に対して積極的に関心を持っていただいている皆さんですから、今日の資料に入っている森林税のパンフレットを有効に活用していただいて、地域の山を元気にする、そして皆さんでもっともっと使えるような森にしていく、そういう取組はぜひ一緒になって進めていただければありがたいなというふうに思っています。

いろんなご意見があってぜんぜんまとめきれていないんですけれども、もう少し継続してやれっていうお話しがありました。ちょっと、私、今日の状況だとなんかこれで終わっちゃって、もうこの問題はやりませんっていう話だと、若干、皆さんからすると、知事は逃げちゃったと思われる可能性があるんで、ぜんぜんそんなつもりはないんで、ちょっと来月すぐやりますという感じにはならないですけれども、今私が申し上げたような見直しが必要な部分があるかどうか検討して、こういう機会をつくらせていただくようにしたいと思いますので、ぜひ、またその時にはいろいろご協力いただきたいと思いますし、今日は私自身も皆さんとこうやって対話をさせていただいて、非常にいろんな気づきがありました。どうしても林務部の職員も一生懸命真面目に頑張っていますけれども、林務部の観点で私はどうしてもこの松くい虫の話は聞きます。だけど、一般県民の皆さんとお話しするとそれだけじゃなくてお子さんの話だったり、そもそも国の農薬のあり方がいいのかみたいな話は県庁の中だけで話しているとそういう話は決して出てこないですね。そういう意味では、私自身も非常に気付きをいただく機会になりましたので、皆さんからいただいたことをもう一回私自身も咀嚼させていただいて、どういう対応ができるのかをしっかり考えていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

【進行役　上原貴夫氏】

知事さん、ありがとうございました。また、会場の皆さんもありがとうございました。

それではマイクをお返しいたします。

６　閉会

【広報県民課長　加藤　浩】

皆さん長時間お疲れさまでした。上原先生には進行に本当にご尽力をいただきました。もう一度、拍手をもって感謝の意を表したいと思います。

時間の制限がございましてご発言できなかった方もいらっしゃると思います。アンケートにご記入いただきまして、入口にありますアンケートボックスに入れていただければと思います。

長時間、本当にありがとうございました。これで県政タウンミーティングを終了いたします。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

（以上）